

災害と図書館

2019. 12. 2. 於：市民交流プラザふくちやま 市民交流スペース
福知山公立大学学長：京都府立京都学・歴史館顧問 井口和起

はじめに

ようこそ福知山へ 第 23 回京都図書館大会中止 (2014. 8. 17.) この年 6 月、福知山中央図書館
現在地にオープン。8. 16～17. 豪雨と内水で市街地冠水。
福知山は水害のマチ 近世・近現代、相次ぐ水害。 治水記念館。 私自身も度々体験。

I. 福知山市立図書館大江分館の経験 — 2013 年と 2018 年の経験から —

※ この項は福知山市立図書館の資料提供によります。

1. 2013 年台風 18 号：9. 15. ～16.

①浸水状況：床上 135cm ②浸水被害：図書約 10,000 冊、什器等 (カウンター、テーブル、椅子、
新聞架) ③図書館システム (業務用、利用者パソコン、周辺機器)

9. 24. 現在の対応

①浸水を免れた図書約 5,000 冊を総合会館 2 階成人教室に仮置き中 ②浸水図書を廃棄物処理
③図書館内、書架 (棚板)、什器等の水洗・清掃済

その後

①館の業者委託で清掃・消毒 ②図書館システム復旧、資料購入、書架・什器修理 or 購入 ③乾
燥を待って再開館おおよそ 3 カ月後の見込み ④2014. 1. 21. 臨時図書館開設

2. 2018 年 7 月豪雨による浸水被害 (2018. 7. 6～7.)

①図書館内浸水推定 50cm=書架 2～3 段目まで。 ②浸水被害：図書約 2,000 冊、書架、カウ
ンター内事務用品、閲覧用テーブル、椅子等。2004 年・2013 年に続く 3 度目の被災。

対応

7～8 月 浸水図書等の廃棄、移動、図書室清掃、臨時図書館開設準備。

9 月 大江町総合会館 2 階 成人教室で臨時図書館開設準備。

10～11 月 支所・総合会館 1 階部分復旧工事開始。

図書館移転先協議 総合会館 2 階視聴覚室へ図書館移転。視聴覚室は 1 階に移転。

最終的に 2019. 4. 2. 大江分館本格開館。所蔵図書 15,000 冊見込みで (移転前は 20,000 冊)。

【経験からの確認事項】

①個人情報の確認と保管場所確保 ②禁帯出本・貴重書 (郷土資料) の確認と被災状況調査 ③
一般書・廃棄・除籍本の処分は図書館職員以外で。

(1)すべての記録写真を残す。(2)必要物品、図書資料避難場所、ボランティア等の確保。特に、浸
水した図書とそうでないものとの分離、後者の保管場所の確保。(3)被災現場への経路の確認と確
保、等々。

II. 東日本大震災と文書資料 — 全史料協の取り組みから —

1. 全史料協（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）の東日本大震災対応の概要
①公文書等の救済の仕組みづくりを目指した取り組み。 ②陸前高田市の被災文書レスキューの取り組み。 ③他機関の取り組みとの連携による課題の共通認識を深める取り組み、等々。
2. 救済の仕組みづくりを目指した取り組みとその未達成

2011. 5. 27. 全国知事会等への要望活動。 6. 8. 内閣総理大臣他、政府機関への要望活動。

主な要望事項

(1)被災地にある公文書等の保全と救済についての種々の支援を行うこと。 (2)公文書等の被災実態調査を行うこと。 (3)被災公文書館や類似施設の復旧・再建に努めること。 (4)失われた資料の他機関塑像資料からの復元方策を検討すること。 (5)被災から復興までの全過程の記録の保存措置を講じること。 (6)「公文書等の管理に関する法律」の趣旨を生かした「震災復興構想」とすること。 → (1)の要望事項の全文とその意図。

(1)「被災地にある公文書等の保全と救済について万全を期すとともに、その保全・保存活動を行う自治体や団体、ボランティア等に対する支援措置を講じること。また、必要な人的派遣や施設の確保について支援を行うこと。」

災害対策本部での人的支援の実現が仕組みとして作れないかどうか？目指したが実現できず。

陸前高田市災害対策本部 → 岩手県災害対策本部 への要請が行われず…公務派遣できず。

2. 陸前高田市での文書レスキューの取り組み

事前協議を経て、

①7. 22. 陸前高田市長に救済計画提案 8. 10・11. 全史料協・法政大学サステナビリティ研究教育機関・神奈川県立公文書館長が現地で協議、三者の分担を合意。

②「東北地方太平洋地震被災文化財等救援事業」（文化財レスキュー事業）の事業実施主体の中核「被災文化財等救援委員会」（事務局：東京文化財研究所）からの補助金およびNPO 法人ジャパン・プラットフォームの補助金と法政大学の支援を得て既に救済活動を始めていた法政大学サステナビリティ研究教育機関金慶南准教授らと協働が行えるようになり、8. 29. ～9. 22. に集中的な活動。以後も継続。

③2012. 3. 末、旧矢作小学校に運ばれていた乾燥作業済で資料名が明示された約 12, 000 点の資料は、市職員で選別され約 5, 000 点に圧縮。内、1, 200 点は神奈川県立公文書館がクリーニングのため持ち帰り。また、議会関係文書 300 点は法政大学が、税務関係文書 240 点は国立公文書館がそれぞれクリーニング作業を行った。

④2012 年度以降、救済した公文書の再クリーニング・電子化する作業が緊急雇用基金活用の市の委託事業として展開された。

3. 陸前高田市でのその他の文化財レスキュー

①陸前高田市立図書館郷土資料と東京都立図書館の救済活動

2013. 9. 51 点、2014. 8. 83 点、受け入れ修復。

（『水濡れから図書館資料を救おう！』日本図書館協会 Booklet6. 2019. 10. 10. 刊）参照。

②その他、博物館資料から文化財指定住宅や町並み復元に至るまで多様な救援活動。

岩手県立博物館調査研究報告書第 30 冊『岩手県における東北地方太平洋沖地震被災文化財等の再生へ向けた取り組み—被災から 3 年目における成果と課題—』（2014. 3. 3. 刊）参照。

4. 数知れない「教訓」の内から、唯一つだけ、ある「提言」を紹介しておく。

【資料の救助優先リストの作成】について（国文学研究資料館：青木睦准教授の提言）

①被災時の救助対象資料の目録と所在の明確化 ②資料の救助評価＝現物の優先保存（重要性）と素材ごと（災害過敏性）の評価はできているか。（例えば、図書の場合、塗工紙かどうか？など一井口注記） ③最優先保存を要する資料の選別は、対象資料目録（概要）を基に、現物保存の優位性（重要性）を決定し、資料の状態調査・把握を行う。平常時に評価検討の組織をつくり決定しておく。 ④選択評価：すべて代替不能なのか。その場合の保存処置のコストはどれくらいか。代替物があり、代替可能な場合は廃棄するか。 ⑤発生場所として想定される被災場所はどこか。被災規模による救済順番は決めているか。 ⑥配架リスト（図面）への資料情報の記入→配架リストの別置と分散保管（被災場所で共に消失しない）

Ⅲ. 図書館・資料館などの防災体制

1. 京都府立京都学・歴史館の諸施設 — 収蔵庫紹介 —

① 収蔵庫は地下1・2階で大丈夫なのか？

・地上部での浸水対策 →地盤の嵩上げ（ハザードマップに基づき、現状地盤から50cmの高さに1階床レベルを設定＝京都市開発許可等審査基準により現状地盤からの盛土は最大限30cm、残り20cmは入り口付近のスロープ化で、計50cm確保）→集中豪雨時の外部からの雨水侵入対策。

・地下外壁は水密コンクリートによる完全防水、外壁部を囲むドライエリアにグレーチングを設け、地下外壁メンテナンススペース確保、その他の雨水排水計画や湧水ピット・漏水センサー等の対策…

… 過去の気象庁統計などを基礎に、想定雨量などをかなり高めにして対応策を講じている。しかし、…？

・収蔵庫内の消火はリサイクルハロン消火剤使用…

② 施設づくりの難しさ

③ 収蔵庫内の各種の資料保存のための措置・工夫

2. 東寺百合文書WEBの意義

①「クリエイティブ・コモンズ表示 2.1 日本ライセンス」(CCBY)による提供 保存にも繋がる。

3. 京都府立京都学・歴史館の役割

① 2014～15. 京都府域全域の資料・文化財等の資料目録データ共有のネットワーク作りを試みたが、未完のまま。

Ⅳ. 「災害」は自然災害だけではない！

1. 「人災」の最大は戦乱・戦争 → 東寺百合文書と東寺の場合

【東寺と所蔵資料の危機】

- ・ 東寺は、796年に創建されたが、その長い歴史の中で、たびたび危機に直面。「危機」の種類は様々 → 主なものは、地震 落雷 火災、盗難、土一揆、戦乱、落雷、地震…など。最も大きな危機は、戦乱と地震だった。
- ・ 危機に遭遇すると、寺僧たちは宝物や文書を懸命に運び出した。戦乱では、遠隔の別の寺院に運び出したが、その寺院が戦闘の場になって効果がない場合も。

- ・ 空襲をともなう現代の戦争と大地震は最大の危機をもたらした。

【戦時下の京都の文化財】

1920～30年代、1941年まで、京都府は専門家を雇って、国宝の建造物の保存・修理を督促したり、独自に宝物調査を進めていた。

- ・ 1943.12.14. 国宝・重要美術品ノ防空施設整備要綱（閣議決定） → 国体擁護・大東亜共栄圏文化創造が主眼。
- ・ 防空施設の実施 分散疎開 空襲による被害を最小限度に防止
- ・ 1944～45. 二条城、醍醐寺三宝院宝物館、鞍馬寺、仁和寺などの収蔵設備に防護施設をつくり、監守常置し、疎開準備をしたり、国宝の収蔵を実施。長岡天満宮宝物庫賃借も検討。
- ・ 防災方法 疎開や貯水槽設置のほか、天井板取り外し、渡り廊下撤去、附属建物除去、警備員増強などを指示。

◆ ブルーシールド

『ブルーシールド—危険に瀕する文化遺産の保護のために』（国立国会図書館訳、日本図書館協会、2007） → ブルーシールドとは、「戦争や災害から文化財を保護する、いわば「文化財のための赤十字」に相当するもの」「武力紛争に際して、攻撃を差し控えるべき文化遺産を示すために、『武力紛争の際の文化財の保護に関する条約（1954年ハーグ条約）』で指定された標章の通称」＝青色と白色からなる盾の形→武力紛争だけでなく、自然災害も含めた災害から文化遺産を保護するために設立されたブルーシールド国際委員会（International Committee of the Blue Shield: ICBS）の名称でも」：ブルーシールド国際委員会（ICBS）は文化財保護に関する5つの非政府組織—設立時のメンバー、国際図書館連盟（IFLA）・国際文書館評議会（ICA）・国際博物館会議（ICOM）・国際記念物遺跡会議（ICOMOS）と2005年に加わった視聴覚アーカイブ組織調整協議会（CCAAA）—で構成」

2. 人為的・意図的廃棄
3. 無意識の「廃棄（忘却）」

むすびにかえて — 防災と図書館 —

— ICOM舞鶴ミーティング2018（2018.9.30.開催）に参加して —

①メライナ・カマイラ ケバ フィジー：グローバル問題の発信拠点としてのミュージアム：太平洋及び世界の気候変動への意識を高め取組を促進させるフィジー博物館の活動 ②エリカ・ディワタ・M・ジャシント フィリピン：災害を語る：フィリピンでの美術展を通して伝える ③サトゥ・イトコネン フィンランド：幸福感を高める美術館 ④島 絵里子 日本：多様な文化的背景をもつ人々が安心して語らうことのできる場としてのミュージアムの可能性—マレーシア国立博物館における多国籍ボランティアの活動の事例から— ⑤5 ジュディス・マカレスター アイルランド：リパトリエーション（返還）と癒しの博物館 ⑥モリエン・リース ノルウェー：急速に変化する世界で持続可能性を促進させる役割を担う文化 拠点としての博物館

※ 図書館が災害を語り継ぎ、防災意識の向上に働きかける「場」となることの意味と重要性

※ 博物館・図書館・文書館 → MLA連携の叫ばれる中で

来館者は何を求めているか？が第一

来館しない人たちを視野に入れているか？